



そよ風

2016年
No. 104

横浜市港北国際交流ラウンジ KOHOKU INTERNATIONAL LOUNGE

だい 第16回 かい ワクワクまつり とくしゅうごう 特集号

港北国際交流ラウンジと大豆戸地域ケアプラザ共催による第16回ワクワクまつりが、10月9日に開催されました。昨年と同様、午前中は本降りの雨でしたが1,232名（うち外国人95名）の入場者がありました。外国人の日本語学習者による日本語スピーチ・日本語劇・カラオケやお国紹介など多彩なイベントを実施しました。親子連れが多く、子どもから大人まで多数の人々がミニ異文化体験を楽しみました。

えいねんかつどうしゃひょうしょう 永年活動者表彰

ワクワク祭りの開会に先立ち、ラウンジのボランティア活動を10年間続けてこられた6名の方が表彰されました。表彰されたのは、柿沼和枝さん、前尾美幸さん、高林秀嘉さん、澤野弘子さん、本田名穂さん、小倉勘一郎さんです。皆さん日本語教室のボランティアです。



左から 柿沼さん、前尾さん、(志賀理事長)、高林さん、澤野さん。なお、本田さん、小倉さんは表彰式には欠席でした。これからも活躍が期待されます。

よこやまひでお こうほくくちょうらいじょう 横山日出夫 港北区長来場

今年も、港北区長の横山日出夫さんが来場され、イベントや展示をご覧になりました。また、日本語教室の学習者による日本語スピーチは楽しみにしていたとのことで、熱心に耳を傾けておられました。



にんぎ 人気イベント せかい 世界のファッションショー



ワクワク祭りの最後を飾るイベントで、毎年、大人気です。今年はコスプレの参加もあり、出演者の皆さんの笑顔がとても素敵でした。



イベントホールの催し物

カラオケ

日本語学習者によるカラオケ大会。日本の歌を日本語で歌いました。



出演者は、左から、ギオバニ・プリバディさん（インドネシア）、シャロン肖云さん（香港）、ラミチャネ・テワン・ジョティさん（ネパール）、カイン・ワーワー・チョーさん（ミャンマー）、ローラ・ゴンザレスさん（アメリカ）、律芸さん（中国）

スチールドラム

ウェンズデイ・アンサンブルの皆さんによる演奏。スチールドラムはカリブ海にあるトリニダード・トバゴの民族楽器で、ドラム缶で作られています。テレビ・ラジオなどで見たり聴いたりしたことがある人も多いでしょう。



フィリピンダンス

フィリピン民族舞踊団の皆さんは、踊りを通じてフィリピンの文化を広める活動を行っています。

写真は、ティニクリンという踊りで、鳥が農民の仕掛けた罠から逃げる様子を表現しているそうです。

フラダンス

アヌエヌエの皆さんによるフラダンス。ハワイの伝統的な踊りです。最後に、会場の皆さんも一緒に踊りました。



バリダンス

ウィヤリ・ヒタ・バリ・ダンスの皆さんによるバリダンス。女性戦士が出陣の準備をしている様子を表現した“プラウィレン・プトゥリ”など2曲を披露していただきました。



イベントの司会は、左から 総合司会 池野谷明子さん、午前の部は川下ホアさん（ベトナム）と代国利さん（中国）、午後の部はシャロン肖云さん（香港）とクマセビ・ハミッド（イラン）さんでした。



ものづくり & 遊び体験



外国人スタッフと一緒に、中国の提灯やマレーシアの手芸品を作りました。（右の写真は、中国の提灯）

えんにちたいけん 縁日体験



紙芝居、バルーンアート、紙相撲、駄菓子屋などのコーナーは、子どもさんに大人気でした。



にほんごきょうしつがくしゅうしゃ にほんごげき
日本語教室学習者による日本語劇

うらしまたろう
浦島太郎



漁師の浦島太郎は、子供たちにいじめられている亀を助けたお礼に海の底の竜宮城に連れて行かれました。そこでは乙姫様の歓待を受けました。太郎は帰るときに、乙姫様から「決して開けてはならない」という玉手箱をもらいました。浜に帰ると、知っている人は誰もいません。太郎は玉手箱を開けると、老人の姿になってしまいました。

太郎は竜宮城で過ごしたのは数日でしたが、地上では長い年月が経っていたのでした。「浦島太郎」は日本ではだれでも知っているおとぎ話です。

浦島太郎を女性が、乙姫様を男性が演じるという珍しいキャスティングでした。

くにしょうかい
お国紹介

外国人の方が出身国のお国自慢などを紹介しました。



上から、ベトナム、ベナン、スリランカ、インド

ニューカマー子どもの教室 就学相談コーナー



外国につながる子どもたちのための就学相談コーナー。各種教材の展示も行いました。

がいこくごたいけん
ミニ外国語体験



上から中国語、ブータン語、タガログ語、ベトナム語（午前）、ベトナム語（午後）、スペイン語のコーナーが設けられました。来場者は、簡単な挨拶などを教わり、知らない国の言葉や文字に触れました。

バザー

皆さんから寄付された本、雑貨、衣類などを販売しました。



にほんごきょうしつがくしゅうしゃ
日本語教室学習者による
 にほんご
日本語スピーチ

今年は、9人の学習者が日本語スピーチをしました。皆さんのスピーチ内容を全部載せたいのですが、紙面の都合上、一部を割愛して掲載します。



カサンドラ・ウィリアムズ さん
オーストラリア ブリスベン出身
来日して約4年、現在は主婦。ご主人と
2歳半の男の子の3人暮らし。

《オーストラリアの動物たち》

私の名前はキャシーです。オーストラリアから来ました。オーストラリアは大きな国です。世界で6番目の大きさです。

オーストラリアには、たくさんの危険な動物がいます。危険なヘビ、クモ、クラゲ、タコ、サメ、ワニもたくさんいます。しかし皆さんは、オーストラリアのかわいい動物たちも危険であることを知っていますか。

オーストラリアには、人よりもたくさんのカンガルーが住んでいます。私が小さい時、住んでいた家の近くにもカンガルーがたくさんいて、時々庭に入って来ました。人間はカンガルーが入ってきたら、家の中に避難します。カンガルーはかわいいけれど、怖いです。カンガルーが、怖いと感じると蹴ったり、噛んだり、引っかいたり、殴ったりします。ゴルフ場に行くと、コースにカンガルーが草を食べに来ます。ゴルフをする人は、カンガルーの食事が終わるまで待ってなければなりません。カンガルーがたくさんいるので、私たちはカンガルーの肉をよく食べます。スーパーでカンガルーの肉を売っています。シチュー、ハンバーグ、ソーセージなどで食べます。カンガルーは味が濃いので、あまりたくさんは食べられません。でも、安くてヘルシーなので、2週間に一回ぐらい食べていました。



オーストラリアには、もう一つ有名な動物がいます。それは日本でも人気のコアラです。カンガルーのお腹の袋は上向きですが、コアラは下向きについています。私が小さい時は、コアラを森で見ることができました。でも、今は自然の中であまりコアラを見ることができません。



オーストラリアでも、コアラに会いたい時は動物園に行きます。コアラも大きな歯で噛みついたり、鋭い爪で引っかいたりします。コアラは小さいけれど、とても大きな声で鳴きます。バイソンよりも大きい声です。キャンプの観光客は、外に危険な動物がいると思ってしまいます。私たちは、その他にもたくさんの動物たちに囲まれて生活しています。私は小さい時、家で馬と犬とヤギと羊と小鳥と鶏を飼っていました。今でも乗馬をします。海でイルカと一緒に泳ぎます。とても楽しいです。でも危険なこともあります。車を運転している時、道路で牛やカンガルーにぶつかることがあります。靴を履く前には、クモやヘビが中に入っていないかチェックします。私は動物に囲まれている生活がとても好きです。でも、日本にいる方が好きです。それは、動物から危険な目に会わないからです。



廖 震平 さん
台湾 台北 出身
来日から約3年、仕事は画家です。

《日本で絵を描いています》

2013年9月、留学生の妻と一緒に生活するために、台湾から来ました。その時からここで日本語の勉強をはじめました。私の仕事は画家です。これは以前、台湾で描いた油絵で、台湾南部のバナナ畑です。私の作品のテーマはこのような風景が多く、日本に来てから、日本の風景も描き始めました。これはこの間、富士山に登った時に見た光景を描きました。



日本には美術館やギャラリーが多くあります。色々なところで現代美術の展示が行われています。私にとって、日本でいろいろな学習と刺激を得ることができています。

この間、私は馬車道の近くの“BankART1929”というところで開かれた「アーティストインレジデンス」に参加しました。今回そこで、国内外から集まった様々なジャンルの50チームのアーティストたちが、一緒に製作現場を共用しました。

この写真は私のスペースです。普段は自分の部屋で絵を描きますが、この機会に大きなスペースがあったので、大きな



絵にも挑戦しました。そして、ほかの作家さんの製作現場も見られて、そこで何人もの日本人作家の友達ができました。一緒に学ぶことができ、いろんな意見交流もしました。短い時間はちょっと残念でしたが、とても楽しい経験でした。今後も日本のアーティストたちと交流し続けて、一緒に頑張るようにします。



潘莉さん
中国 重慶 出身
来日して約7ヶ月、IT企業に勤務しています。

《私の故郷》

私の故郷は中国南の方の都市、重慶市です。中国では、北京、上海、天津、重慶が直轄市です。

重慶市に関しては、皆さんに一番紹介したいことは料理です。重慶の料理の特徴は辛さです。みなさんよく知っている四川料理と同じようなものです。

辛い料理の中で、一番有名な料理は火鍋です。唐辛子、山椒、ニンニク、生姜、長葱を一緒に入れて、スープを作ります。



みなさんは、火鍋は冬の季節に食べる料理だと思っているでしょうね。でも、重慶では蒸し暑い季節でも、汗を流しながら火鍋を食べます、最高です。友達とのパーティー、家族の集まりなど、普段はみんなと一緒に食べます。もし、重慶に行ったら、良かったら、ぜひお試しください。

重慶の風景もきれいです。日本と同じように、春、夏、秋、冬の季節があります。子供の頃、私の家の前に、一本のスモモの木がありました。春になると、白い花が咲きます。蜂は花の周りでダンスをしたり、遊んだりしている

て、今でも、あの頃の様子を思い出します。夏になると、日本より、もっと蒸し暑くなります。子供の頃、友達と一緒に、私の家の近くの川に遊びに行きました。

カニや虫を探して、とても楽しかったです。秋になると、ゆずが実ります。ゆずは大きくて、甘いみかんのようものです。冬になると、雪が降らなくて、梅雨のような天気で、一ヶ月の半分は雨です。でも、私は雨の日は嫌いじゃないです。霧のような雨はとてもきれいです。現在は、2年に一度は重慶に戻ります。でも、私の故郷は、道は草で覆われ、誰も住んでいません。戻ったとしても、記憶にある懐かしい故郷はそこにはあ



りません。とても悲しく思います。みなさんの心の中の故郷はどんな模様ですか。



パトリック・ラケットさん
アメリカ ニューヨーク 出身
来日して約7か月、仕事はグラフィックデザイナー、英語教師です。

《言葉の違い》

去年9月、ニューヨークから綱島に来ました。今年一年ぐらいいます。384日5時間15分ありますけど、数えていません。

この写真は8月の綱島のお祭りです。この写真は昨年撮りました。日本でのこの一年は数十年ぐらいいと感じました。

もちろん、たくさんの方が、アメリカと日本では違います。例えば、アメリカでは、日本の道路と違った方向に運転します。

アメリカでは、食べ物の量が多いです。日本では、食べ物の量が普通です。

日本では、箸で食べます。アメリカでは、シャベルで食べます。でも、一番の難しい事は日本語です。港北ラウンジのボランティアの方々のおかげで、少し話せるようになりました。それでも、たくさんミスします。



例えば、8月の祭のことを妻に話しました。私は「三越を担いだら、」と言いました。

妻は「三越はデパートだよ。おみこしよ。」と言いました。私はいつも発音の似ている言葉をまちがえます。「祭で、手羽が要る。」と言いました。また間違えました。足袋でした。

晩ご飯の後、妻は「もっと食べたい?」と聞きました。「お腹がおっぱい。」と言いました。

また間違えました。でも、頑張っています!



カット・ティ・ゴック・ハンさん
ベトナム ハノイ 出身
来日して約9ヶ月、現在は学生です。

《100節の竹》(ベトナムの民話)

むかしむかし、ある村にとっても元気な若者がいました。かれの名前はコアイです。コアイはこの村のお金持ちの

地主のところで朝早くから夜遅くまで一生懸命働いていました。

ある日、地主はコアイに「これからも一生懸命に働いたら、わたしの娘と結婚をさせる。」と約束をしました。コアイはとても喜びこの約束を信じていましたが、3年すぎても結婚することができませんでした。

じつは、地主は娘とこの村の村長の息子を結婚させたのです。地主はコアイには秘密にして結婚式の準備をはじめたのですが、コアイと約束をしていたので、一つの提案をしました。それは、竹林に行き「100節の竹」を見つけることでした。

コアイはすぐに竹林に行きましたが、「100節の竹」は、なかなか見つからず、とても疲れて泣いていました。

とつぜん神様が近づき「どうしてお前はそんなに悲しいのか？」と聞きました。コアイは泣きながら地主が約束したことを話しました。

「神様、どうか『100節の竹』を探してください」とお願いすると、神様は「100節の竹」のあるところに案内しました。しかし、「100節の竹」はとても長く、持って帰ることができません。すると神様は「節のところで切りなさい。」と言いました。

「でも、竹を切ってしまうと約束の『100節の竹』ではありません。」と言うと、神様は「この呪文『カイニャップ・カイニャップ』と言うと、もとの長い一本の竹になる。」と教えました。

竹は どんどんつながって、一本の長い長い木になったので、コアイはとてもうれしくなりました。神様から別の呪文『カイニャップ・カイニャップ』を覚えてもらい、コアイは長い竹を短い100節にして急いで地主の家に帰りました。

コアイが家に着いたとき、地主の娘と村長の息子の結婚式の準備をしていたので、コアイは腹を立てました。

みんなは、コアイが持って帰った短い100の竹を見て笑っていました。

そこで、コアイはみんなを呼んで、神様に教えてもらった呪文『カイニャップ・カイニャップ』を100の竹に向かって言いました。すると短い100の竹はどんどんつながって長い一本の「100節の竹」になりました。地主たちもこの長い竹にくっついてしまい、なかなか離れることができませんでした。

コアイは地主に「わたしは、約束をまもりました。

だから、あなたも約束をまもってください」と言いました。ついに、地主もコアイとの約束のため、二人を結婚させました。それから、みんなはいっしょにいつまでも幸せに暮らしました。



リュウガ・クラウス さん

オーストリア ウィーン近郊 出身
来日して約9か月、現在は植木職人
見習い中です。

《私の仕事》

私は一年ほど前から、おもしろい仕事を始めました。今日は、その仕事の話をしてします。

私の仕事から、おもしろい音が聞こえます。

その音にはリズムがあります。(チョキ チョキ チョキ...)

私の仕事はなんでしょう？ わかりましたか？ はい、そうです。私の仕事は植木屋です。初めて日本でこの仕事をした日は、三人で一緒に働きました。

先輩の植木屋さんは、高い木に登って剪定をしました。

“剪定”わかりますか？ 木の枝などを切って、花や実がよくつくようにすることです。私は、落ちてきた枝を集めました。二人の植木屋さんが 切った枝は、パシャ

ン パシャンと落ちてきて、それはまるで雨のようでした。

私は、日本の植木屋さんの仕事がとても速いので、とても驚きました。それは、もちろん植木屋さんの腕が

いいからですが、この剪定ばさみは、ほんとうにすばらしい道具です。

日本の庭は、とても小さいです。でも、その小さい庭にはたくさんの木と色々な種類の花が植えてあります。

その花をつぶさないように、足もとにも気を付けなければなりません。だから、植木屋さんの仕事をするときには、特別な靴をはきます。地下足袋といいます。



この地下足袋の裏はやわらかいので、土を直接感じることができません。そのおかげで安心して木に登ることができるし、庭に咲いている花をつぶさないで歩くことができます。地下足袋は、はきごちがよいです。でも、冬は足が冷たくなります。日本の庭は、狭くて動きにくくて、時々、剪定がしにくいです。木を切った後などの掃除もしにくいです。



私は、オーストリアでも ガーデナーの仕事をしていました。でも、日本とオーストリアの庭のイメージは、全く違います。一番大きな違いは、庭の広さです。

木や花の植えかたも違います。それから、オーストリアではどこにでも芝生が植えられています。私が仕事をしていたオーストリアの庭も緑の芝生



でした。とても広い庭なので、芝刈りはトラクターを使っていました。イセキのトラクターです。日本の道具は、ヨーロッパでも人気があります。ヨーロッパの庭は、幾何学的なデザインです。木には 葉っぱが茂っているので、中の方は見る事ができないくらいです。日本の庭園は、丸くてやわらかい雰囲気仕上げます。だから、自然な感じになっています。私は、日本の植木屋さんの仕事を始めてから、木のイメージが変わりました。植木の剪定の仕方もすっかりした形にすることも習いました。

まだ見習いですが、仕事はとても楽しいし、毎日師匠のもとで頑張っって勉強して、日本の植木屋職人になりたいです。皆さん、もし植木屋さんが必要な時は、よろしくお願ひします。



リコ・オネリス さん
 コロンビア ベネズエラとの国境近くに
 ある村の出身
 来日して約6か月、現在は大学院で
 メディアデザインを学んでいます。

《一番好きな国、日本》

皆さん、こんにちは。私はオネリスです。コロンビア人です。3月にカルタヘナから来ました。

コロンビアでは、2つの名前と 2つのファミリーネームがあります。

私の名前は、オネリス・ダニエル・リコ・ガルシアです。とても長いですが！



私は、今まで、3つの国に住みました。1つ目は、もちろんコロンビアです。2つ目はイギリスです。イギリスでは映画製作の勉強をしました。3つ目が日本です。慶応大学のドクターコースでメディアデザインの研究をしています。このなかで、私は日本が一番好きです。特に横浜が好きです。横浜はとてもおだやかな街です。

私はいつか、母を日本に招待したいです。母は、コロンビアの田舎で育ちました。日本の川や、小さい森や、畑を見て、子供の頃を思い出すでしょう。それから、北海道

と一緒に雪を見たいです。私たちは雪を見たことがありません。母は、きっと日本を楽しむでしょう。

私はもっともっと日本を知りたいです。もっと日本語を勉強します。ベストをつくします。頑張ります！



キルステン・ジョンソンさん
 フィリピン生まれのアメリカ人
 来日して約6ヶ月、仕事は英語教師。

《新しい違う世界を見つける》

初めて会った人はだいてい「お仕事はなんですか？」と私に聞きます。5年前の私の答えは、みんなを驚かせました。それはいつも「オウ！すごい！」といったいい反応でした。

これは私の前の職場の話です。そこは素晴らしいところでした。素晴らしい料理や、偉い人や、たくさんの面白い事がありました。私は約7年間、アメリカのグーグル本社で働いていました。じゃあ、なぜ私がそんな素晴らしい職場をやめたのかというと……。

その答えは簡単です。素晴らしいと思っていたグーグルでの仕事があいつの間にか私にとってつまらない仕事になってしまっていたからです。でも、それだけではありません。あんなに自分の仕事が好きだったのに、何年かたつと私は毎日憂鬱になりました。夫や、十分なお金や、楽しかった仕事を持っていたのに、なぜ自分が幸せでないのかが分かりませんでした。

そんなある日、私は英語教師になるためのコースの広告を見ました。そして、それを忘れることができなくて、その事をずっと考えていました。中学生の時、お母さんと私はボランティアで英語を教えていました。楽しかったなあ。そこで、1週間後に私は仕事をやめて、英語の教え方を習いだしました。とても嬉しかったです！

私は、その頃いつもアジアに戻りたかったし、中国をあまり知りませんでしたから、まずは中国に行くことに決めました。でも、中国語や中国の文化が分かりませんでした。アメリカの中国料理も好きではありませんでした。そこで、私は中国語での数のかぞえかたを習ってみることにしました。それはとても簡単で、指での数え方はとても面白かったです。次に、私が持っていたほとんどのものを売って、2つのスーツケースの中にすべての持ち物を詰めました。それから、アメリカでの最後の時間を家族とすごすため、いろいろな州にすんでいる家族を訪ねました。

私は、中国のLiányúngǎng (連雲港市) という町

に行きました。その頃Liányúngǎngの人口は5百万人で、そのうち80万人はダウンタウンに住んでいました。多分、百人ぐらいが西洋人で、そのうち15人ぐらいがネイティブな英語を話しました。



実際の中国は私が想像していたものと全然違いました。本場の中国料理は素晴らしかったし、私はいつも何かに見とれていました。それが何か分からないこともよくありましたが…。それに、この町の人たちはとても親切でした。私の隣人たちは英語を話せないのに、いつも私と話そうとしました。私たちは身振り手振りでコミュニケーションをとりました。私の中国語を習うスピードはとてもゆっくりでした。でも、楽しかったです。今、私が「英語教師です」と言うと、たいていみんな興味を失います。私にもその気持ちがあります。外国で教えるのは、少ししかお金を稼げないし、長時間働かなければならないし、昇進もないからです。それでも、毎朝、私は嬉しいのです。そして、英語教師になってよかったと心の底から思うのです。



ファン・バン・ソン さん
ベトナム ハノイ 郊外出身
来日して約2年、建設会社に勤務
しています。

《日本に来て良かった》

はじめに、外国人のみなさんに質問があります。「みんなはなぜ日本に来ましたか?」。おそらくみなさんは素晴らしい理由で日本に来たと思います。しかし、私は一つの偶然で日本に来ました。日本に来る人が急に病気になるって、代わりに私 came ました。私はその偶然から学んだことについてお話しします。

最初に勉強したことは“挨拶の仕方、あやまり方、感謝の言葉の言い方”です。日本のように、そのような言葉を言いやすい雰囲気は他のどの国にもありません。日本ではいつでも、どこでも、お辞儀、あやまる言葉、感謝の言葉に出会います。それは日本人には当然のようです。つまり、日本人のコミュニケーション能力は世界で一番だと思っています。

次は、他の人や自分の時間を大事にすることです。仕事で5分遅刻した時に、親方が厳しく怒りました。そのおかげで私は二度と遅刻しません。いつも約束の時間の5

分か10分ぐらい前に来ます。これは素晴らしい変化ですね。

三つ目ですが、毎日早起きする習慣が身につきました。私は仕事の関係で毎日5時から5時半に起きます。それによって1日より多くの時間が過ぎ、より多くの仕事ができます。つまり、1日をより長く生きられます。今は休日でも6時には起きます。

四つ目は、赤信号を待つことです。私は一人の小学生からこれを学びました。赤信号の時、道を渡ろうとしたら、一人の男の子が信号が変わるのをじっと待っていました。そこで、私も彼と一緒に青信号を待ちました。



最後は、他人のために考え、相手のことを考えるということです。日本人は相手のプライバシーを尊重し、お互いに迷惑をかけないようにしています。例えば、夜中に洗濯機の騒音を出さず、電車やバスの中では静かにしています。車を運転する時や道を歩く時も、他の人に道を譲るようにしています。

その他にも、たくさんのすばらしいことを学びました。しかし、まだ知らないことがたくさんあります。これからも私は成長のために一生懸命勉強します。偶然で日本に来て本当に良かったと感じます。

ふるさと港北ふれあいまつり

10月22日 新横浜駅前公園野球場にて“2016ふるさと港北ふれあいまつり”が開催され、港北国際交流ラウンジも出展しました。

世界のじゃんけん、国旗あてクイズ、ピースで世界の国旗を作るワークショップなどを行いました。



横浜市港北国際交流ラウンジ

KOHOKU INTERNATIONAL LOUNGE

〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町316-1
Tel 045-430-5670 Fax 045-430-5671
E-mail kohokulounge@yokohama.nifty.jp
ホームページ http://kohokulounge.com/

横浜市港北国際交流ラウンジは、港北区役所からの委託を受けて（特非）港北国際交流の会が運営しています。